

獨協医科大学 医学部 公衆衛生学講座

研究室紹介 (247)

「学問を通じての人間形成」を目指して

獨協医科大学は、1973年に、獨協学園88周年を記念して栃木県壬生町に開学しました。獨協学園のルーツは、ドイツ文化を摂取し日本文教の興隆を図る目的で1881年に設立された獨逸学協会に遡ります。獨逸学協会は、1883年に獨逸学協会学校を設立し（初代校長 西周、第2代校長 桂太郎、第3代校長 加藤弘之）、第二次世界大戦後も天野貞祐らの同窓生により存続しました。1947年に獨逸学協会の名称が財団法人「獨協学園」に変更され、1948年に新製の獨協中学校・高等学校が発足しました。そして1964年には、獨協大学が埼玉県草加市に「学問を通じての人間形成」の精神のもとに開学しました（初代学長 天野貞祐）。獨協医科大学は、この建学の精神に則り、「患者さま及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師を育成すること」を教育基本理念としています。

医学部公衆衛生学講座は、このような本学の建学精神に基づき、講義や実習、課外活動や医師国家試験対策、臨床研究指導を含めた医学部の卒前卒後教育はもとより、他学部向けの疫学・公衆衛生学講義や研究指導など、公衆衛生学を通じた「人づくり」「プロフェッショナル教育」を幅広く展開しています。目標は10年後に臨床研修を終えた若い医師たちが、公衆衛生学の重要性を思い出して講座のドアをノックして来てくれることです。

「独立と協力」により展開する教育・研究

獨協医科大学においては、社会医学系の分野が細かい縦割りになっておらず、公衆衛生学の広範な領域の教育・研究のほとんどを当講座が担っています。講座の教育・研究を支えるスタッフは、教授の私と准教授3人、助教2人、そして隣の研究センターからの助教を加え7人です。健康教育、疫学、統計、栄養、身体活動、放射線科学、実験などの専門家がそろっています。各々の得意分野を生かしながら力を合わせる（独立・協力）、またお互いに学び合うことで一人一人が複数の専門領域を身に付け、他にはできない独自の発想や実践ができるように日々精進しています。

公衆衛生学は、人々の健康や疾病予防に関わる要因を、人間集団、生活、社会、の視点から明らかにし、社会の取り組み、実践活動につなげる学問で、この視点や方法論は、臨床医を含めて、人の健康や生活を守るすべての方々にとって基本です。そのような認識から、当講座の学生教育は、上記の「人づくり」「プロフェッショナル教育」をおこなっています。一方、学生にとつ



写真◇講座スタッフ
前列中央が筆者

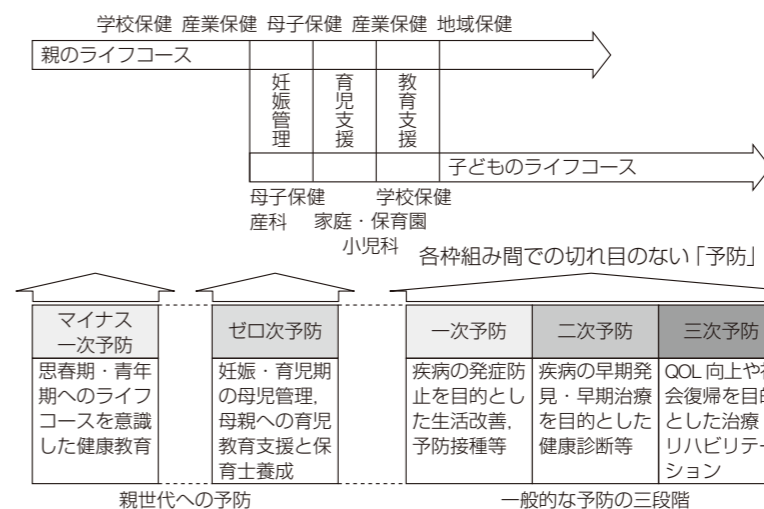


図. マイナス一次予防から始まる「子どものライフコースに配慮した成育予防」

てクリアすべき重要な課題であるCBT、医師国家試験に対しても、講義以外にも多数の対策講座・企画をおこなっています。

また当講座は卒後教育にも力を入れており、公衆衛生学、疫学・臨床疫学、臨床遺伝に関わる多数の学内セミナーを主催・共催しています。そのおかげもあって、当講座の大学院生・研究生には学内外の臨床分野、健康科学分野、行政関係などから新しく入学しています。

講座のメインテーマは「成育予防」

近年は、すべての人の「健康長寿」を目指して、予防医学の重要性が高まっています。予防医学には、疾病の発症防止を目的とした生活改善や予防接種などの「一次予防」、早期発見、早期治療を目的とした健康診断などの「二次予防」、QOL（生活の質）の向上や社会復帰を目的として適切な治療やリハビリテーションをおこなう「三次予防」、の三段階があります。多くの疾病の発症には長期間の生活習慣の積み重ねが関わることから、一次予防の重要性が強調されています。疾病の発症要因においては、青年期・成人期以降の多くの生活習慣やストレス対処行動が主要な部分を占めますが、これらは幼少期に親から与えられた成育環境に大きな影響を受けると考えられます。しかし、現段階ではまだまだエビデンスが少なく、子どもの成育環境改善のための親支援、そしてそれ以前の妊産婦教育、将来親になるであろう思春期・青年期に対する教育へも十分反映されてはいません。このように、一つ世代を遡ってマイナス一次予防から始め、子どものライフコースに配慮する予防を「成育予防」と名付け、講座のメインテーマとしています(図)。

当講座では、成育予防のエビデンス創出に向けて、住民健診における循環器疾患予防領域、妊娠高血圧症候群などの周産期合併症予防領域、産業保健領域のそれぞれにおける大規模コホート研究や健康教育研究(MICS, OSAN, MOM, CHERISH)を新しく立ち上げ、精力的に研究をおこなっています。

様々な分野との間に「小さな橋」を架けることを目指して

また、公衆衛生学講座は、基礎医学と臨床医学、大学と社会の間の調整役であると認識しています。そのため様々な分野との間に「小さな橋」を架けることを目指して、他大学や臨床科との共同で多くの研究をおこなっています。また、臨床疫学研究への参画・支援、自治体の健康栄養調査や健康教育事業、放射線の健康影響に関する疫学研究(福島県立医大や放医研との共同研究)、成育予防研究の基礎となる人間発達と教育に関する研究などにも精力的に取り組んでいます。

大学キャンパスは、栃木県壬生町の東武宇都宮線おもちゃのまち駅の近くにあり、春は桜が咲き、秋は銀杏の紅葉に染まる、風通しの良い素晴らしい環境に恵まれています。臨床の視点と経験をもって疫学・公衆衛生学を実践することはもちろん、疫学・公衆衛生学の手ほどきを受けた臨床医も、これからの時代には必要です。

志をもった先生方のご来訪を心より歓迎します。

講座ホームページ <http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/pub/index.html>

<小橋 元>